



とっとり Now

鳥取県総合情報誌 vol.111

2016
Autumn

[巻頭特集]

おもしろさ、多面体。

自然、歴史、暮らし溶け合う南部町

[特集]

温泉地の賑わい、再び

〆しゃあまけたち、が奔走する
関金地区

獲物を串刺しにする習性あり



▶モズ◀

全長20cm。秋になると高鳴きをして縄張りを確保する。愛らしい容姿とは裏腹に、バッタ、カエル、小鳥などを食べる肉食。小枝などに獲物を串刺しにする習性(早贄)があるが目的は不明という。他の鳥の声真似が上手いことから、漢字で「百舌鳥」と表す。

参考文献*『とっどりの野鳥』(2003年5月、鳥取県発行)
写真提供*NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部 徳永 美江

とっどり Now

鳥取県総合情報誌 vol.111
2016 Autumn



©とっどり花回廊



文/角秋勝治
写真/山本慶治(作品)
山内一峰(人物)



『Being』(油彩、227.3×181.8cm、2007年)



『風韻』(油彩、181.8×227.3cm、2014年)

「とにかく迫力を」と語る、洋画家の山根文子さん。高台にあるアトリエは、緑の丘陵と四季折々の花々に囲まれ、小鳥のさえずりが絶え間ない。この恵まれた天然の環境で、具

象と抽象の間を往還しながら、熱くて強い筆勢の大作が生まれる。

半具象の『風韻』は、風に煽られるススキを描いた。叙情に流されることなく、黒いシルエットに枯れ果てる死の予感と、野性の逞しさが競い合う。洋画のリアリティーに、日本画の平面的な空間。多様な技法は、作者の感性あつてのものだ。

抽象画の『Being』は、「思うがままに」という意味。画面の大半を占める白色は、無限の勢いで激しくうねる。中央を貫いて屹立する真紅には、はつらつとした自由な創造への意志がある。鮮烈、爽快な作風は、やはりわが道を行く人にふさわしい。

作品のヒントは「風や草花から得ることが多い」という。しかし「素材にこだわらず、自分のイメージをふくらませ、見る人の想像力もかき立てる作品を」と意欲を燃やす。自然と命の鼓動を伝えて、大胆に鮮やかに、めくるめく命の奔流一。



めくるめく命の奔流 洋画 山根文子

やまね・ふみこ
鳥取市生まれ。1986年、行動展初出品、初入選。全関西行動展で、90年に大阪市長賞、93年に新人賞受賞。94年、行動展奨励賞を受賞し会友推挙。2004年、川上奨励賞受賞。07年、行動展会友賞を受賞し会員推挙。鳥取市内のギャラリーなどでグループ展や個展を開く。

あーとの森

洋画 山根文子

2

巻頭集

おもしろさ、多面体。
自然、歴史、暮らし溶け合う南部町

4

郷土OVの紙芝居師
二口画伯の絵日記帳

ぶった斬りの落語会

16

まごころの人
Human Life

新真二 コントラバス奏者

17

古今時代屋
ここにあるカタチ

ハセホビー

20

特集

温泉地の賑わい、再び
しゃあまけたちが奔走する関金地区

22

良い酔いはしこ酒
とっどり酒蔵めぐり

久米桜酒造

26

鳥取のうま味

素材生かしたとり料理

27

VIVALDIのLINE
輝くスターたち

似顔絵画家・イラストレーター(鳥取市青谷町)

28

企業紹介

株式会社インフロー

30

Voice
縁すまいる

だいせんファンクラブ

31

読者プレゼント・編集後記

32

●表紙イラスト● ASAKURA KOUHEI (朝倉 弘平)



絵かき。1983年宮城県仙台市生まれ。自然との交感をテーマにした水彩画を描く。5月末に次女が生まれ、4人家族になった。倉吉市内のクリニックで望んだ自然分娩。命を繋ぐ、力強く、奇麗な出産に立ち会えて感動。また一段と賑やかになった。



*表紙作品のモチーフにした県内に住む鳥の特徴を毎号、紹介します。

※カメラアイは休みます。

おもしろさ、多面体。

自然、歴史、暮らし溶け合う南部町

県西部に位置する南部町は、自然、歴史、人の営みが絶妙のバランスで共生、する。町内の母塚山の頂上からの眺望は絶景で、森の緑と田畑、民家が、ほどよく散らばり広がっている。神話や伝統が現在進行形で暮らしに溶け込み、新しい活動も盛んだ。そんな多面体の魅力を持つまちを歩いてみた。

文／松村 亜紀子 写真／萱野 雄一・余 有奈

国生みの神イザナミの御陵とも伝えられる「母塚山」からの眺めは、大山〜月ヶ浜を一望できる絶景スポット。3月、9月には、大山の頂上に朝日が重なる「ダイヤモンド大山」目当てに多くのカメラマンが押し寄せる



法勝寺川土手沿いには430本のサクラが植えられており、毎年春には多くの花見客でにぎわう。



歴史上の人物、アニメや映画のキャラクターなど多種多様にわたる一式飾り。まちを散策しながら、1点ずつ探して歩く仕掛けも楽しい。



「一式飾り作りは、確かに手間がかかるが、住民同士の交流の場にもなっています」と枝野さん

法勝寺歌舞伎保存会
法勝寺宿自治会
南部町企画政策課 0859-66-3113
南部町観光協会 0859-30-4822

自治会長の枝野良さんは「みんな口では『仕方なしにやっとなら』と言ってくれど『続けていかんと』、という気持ちは持っています」。地域になくならない行事になっている。

一式飾り作りは「道具を切ったり穴をあけたりは禁止」など、いくつかの制限の中で工夫を凝らす。題材も幅広く、制作年の時事問題やアニメの主人公も。披露の半年ほど前から、近所の者が知恵を出し合い、コツコツと作業を重ねていく。度々、集まることで地域の絆も深まるといえる。

一方、陶器や塗り物など1種類の生活道具を組み合わせて、人物などを形作る一式飾りは、江戸末期から明治初期に始まり、当時は旧正月の行事で、悪病よけの祈願だった。今では8地区対抗で腕を競い、毎年4月の「南部町さくらまつり」で発表する。今年は、法勝寺中学校の生徒の作品も加え、計30点が町を彩った。



子どもたちのメイク、カツラなどは、すべてボランティアで町内の美容師らが協力：©法勝寺歌舞伎保存会



「法勝寺歌舞伎保存会」立ち上げ当初の舞台の様子：©法勝寺歌舞伎保存会

住民主体で伝統受け継ぐ

【法勝寺歌舞伎と一式飾り】



毎年4月の「さくらまつり」でお練りを行う子ども歌舞伎。定番となり、観光客らに大人気だ：©法勝寺歌舞伎保存会

江戸末期ごろ、旅役者との交流から生まれた法勝寺歌舞伎。庶民の娯楽として長く親しまれてきたが、時代の流れで廃れていく。復活をかけた1955年に住民有志で「法勝寺歌舞伎保存会」を立ち上げたが、程なくとも衰退。そして1984年、「今度こそ」と奮起し、新メンバーも加わり再結成した。2002年からは京都の専門家の指導をみっちり受けた結果、年々レベルアップし、現在は町内で年1回、定期公演を行う。

後継者を育てるために2002年、子ども歌舞伎もスタート。演目は「白浪五人男」のみで、4歳から小学6年生までの13人が稽古に励む。大人顔負けの本格的な演技が好んで、県外も含め年3、4回の上演をこなす。知名度も上がり、今では定期公演の客の半数が、町外からのファンだ。また、着付けやメイクな

どは、保護者や地域の方が100%ボランティアで協力し、成り立っている。子ども歌舞伎の卒業者が、大人の公演に加わるなど成果も出始めているが、課題は後継者と指導者の育成。原さんは「ここまでやってきた。出来るだけ長く続けたい」と決意を新たにしている。

「紆余曲折があっただけ、続けてこられたのは、地域の人たちの温かいサポートのおかげ」と話す原さん



幻想的な光を放つホタルの舞。期間中には県外からも観光客が訪れる



■□ ホタル舞う金田川 □■

6月初旬、金田川の金突橋付近で、夜毎にゲンジボタルがふわりと舞い飛ぶ。多い時で1000匹を超え、水面近くから川岸の竹藪の上まで、幻想的な光に包まれる。

一時は、環境汚染などで激減していた。近くの住民らが「あの光景をまた見たい」と、「金田川ホタルの里」(井塚照雄代表)を結成。25年かけて、幼虫のエサになるカワニナを集めたり、水質を改善したりと、試行錯誤でホタルを呼び戻してきた。

代表の井塚さんは「今も活動は手探りですが、ホタルの光は、不思議と見る人に感動を与えてくれる。大変だけど頑張れます」。

口コミで年々、鑑賞客が増加し、川へのアプローチに手作りの提灯を並べ、県の協力で柵なども完備した。昨年は、近くの会見小学校の児童が育てた幼虫を放すなど、ホタルに最適な環境を探っている。

☎ 金田川ホタルの里
☎ 南部町企画政策課
0859-66-3113

地元熱意で乱舞復活



「なんぶ里山デザイン大学」の講座のうちの一つ「子育て講座」で梅シロップづくりを体験する親子連れたち

☎ NPO法人なんぶ里山デザイン機構
〒 西伯郡南部町浅井938
(町総合福祉センター「いこい荘」内)
☎ 0859-21-1595(平日のみ)
🌐 http://nanbu-satoyama.jp
E-mail info@nanbu-satoyama.jp



そして、地元でも里山の魅力を活用しようと動き出した。昨年、まちづくりの会議に集まった町民らが中心となり、特定非営利活動法人(NPO法人)「なんぶ里山デザイン機構」(会員約40人)を4月に発足。町への移住・定住の促進や住居・職業の紹介、里山の魅力発信などを進めている。

子どもと保護者を対象に、毎月第3土曜日に実施。「五感を使って遊ぶ中で、昔ながらの子育ての知恵を伝えよう」と、町内産の梅での梅シロップづくり、野菜収穫、キャンプなど体験イベントが盛りだくさん。今後、大人対象の手仕事や自然講座なども開く予定だ。

理事長の毎川秀巳さんは「まずは南部町に興味をもってもらうことかなので、魅力を発信していく。移住促進では、地域との橋渡し役を担いたい」と意気込んでいる。

NPO法人「なんぶ里山デザイン機構」のメンバー。さまざまな職業の傍ら、年間を通じて南部町の魅力を発信していく。後列左が理事長の毎川さん



ヤマイバラ



モウセンゴケ

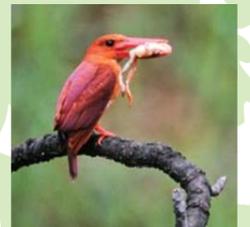
南部町の生き物たち

「重要里地山500選」に選ばれた南部町には希少種の植物や生物が多く存在する。その一部を写真で紹介する。

：©もりまきフィールドネットワーク



ツブコブノウ



アカショウビン



ノスリ



ギフチョウ



キンイロネクイハムシ



ヒダサンショウウオ



アオハダトンボ



カジカガエル

「共生」の里山守り、発信

NPO法人「なんぶ里山デザイン機構」

南部町の大きな魅力の一つが、自然の豊かさだ。人と自然がバランス良く「共生」する「里山」の暮らしが町中で見られる。

その姿に、国も太鼓判を押した。昨年12月、環境省が次世代に残したい「生物多様性保全上重要な里地山」として全国で500カ所を選定したうち、南部町は町全体の指定を受けた。全町指定は全国でも7カ所だけで、西日本では唯一。ため池や雑木林などを残したまま、モザイク状に土地を利用している点や、多くの貴重な生物が住む点などが評価された。県の絶滅危惧種であるツブコブノウや里山のシンボルのオオタカ、国の特別天然記念物のオオサンショウウオなどが確認されており、自然観察ツアーも盛んだ。

癒やし空間で舌も心も満足

佐伯勉さん、妙子さん夫妻が静かな住宅街の自宅を改装した癒やし空間で、もてなしてくれる。レストランのランチは、目の前で加熱して出来立てを食べる手作り豆腐鍋やオムレツ、生春巻きサラダなど旬の野菜を生かした10品以上で1600円(税込)。蕎麦は勉さんの手打ちだ。目でも満足してもらえるようにと、器にもこだわる。

併設の「ギャラリー&茶房 権」では、地元作家を中心に月替わりで絵や手工芸を展示。作品を眺めながら、薫り高いコーヒーやケーキをいただける。

多種類の料理が美しく盛り付けられたランチ



■おちらと庵さえき■

店内からは、季節の移り変わりを告げる庭の木々が眺められ、心地良いひとときを演出。「おちらと」(ゆっくり)したいときにぴったりだ。また、器などの骨とう品や、勉さん作の木製の額などは販売もあり。



ゆったりとした空間でまったりできるギャラリー

- ☎ おちらと庵さえき◆ギャラリー&茶房 権
- 〒 西伯郡南部町福成997-44
- ☎ 0859-66-2004
- 🕒 ギャラリー、喫茶 10時30分～16時30分
※ランチは11時30分～13時30分(要予約)
- 🗓 毎週火曜日、第1・第3月曜日

「再活」キーワードに人気上昇

「小さな神社ですが、神話のおかげでパワースポットとして名前が知られるようになりました」と山本さん



山の緑に囲まれた小さな神社が、近年パワースポットとして注目を集めている。赤猪岩神社は、オオクニヌシノミコト(以下:オオクニヌシ)が復活を遂げた場所と言われている。因幡の白兔を救い、ヤガミヒメとの結婚を決めた帰道。嫉妬した兄神たちに騙され、山頂から落ちる赤く焼けた大岩を抱きとめたオオクニヌシは、絶命する。古事記に『伯耆の国の手間の山本』とあるが、「その手間山が、あそこに見える要害山のようにです」と、宮司の山本侑弘さん。大岩はお社の裏に深く埋められ、

岩で蓋をされ、しめ縄で囲って祀られている。



復活の際、2柱の女神が使った清水だと伝わる「清水井」は、赤猪岩神社から徒歩約15分。かつては交通の要所だったという古道を抜けると、民家の脇で古くから枯れることなく水が湧いている。女神が治療を行ったとして、葉や看護の発祥の地とも言われており、近くの清水川神社では、2柱の女神と母神を祀っている。地元では2012年から、この湧水で古代米を育て、2013年秋から「赤猪岩古代米」(※)として販売も開始した。



2柱の女神がオオクニヌシを助ける際に使ったと伝わる湧水「清水井」

復活や再起の象徴として、プロのゴルファーやサッカー選手らが神社を訪れたり、県外から観光バスが来たりと、人気は上昇中。山本さんは「6、7年前からじわじわと県外の方も増えました。多くの方に来ていただくのはありがたいこと」と話し、町も再生・復活をキーワードに「再活の町」としてPR中。古代日本の劇的な物語が、再起を願う人々を引き付けている。

※ 赤猪岩古代米は食物繊維やカルシウムなどの栄養分が豊富で、赤、黒、緑、ミックスの4種類あり。赤猪岩神社前の売店(※緑の扱いなし)、緑水園(15頁)で販売。



オオクニヌシノミコトに落とされたという大岩

■オオクニヌシノミコト■

昔、因幡の国のヤガミヒメが、結婚相手にオオクニヌシノミコト(以下:オオクニヌシ、当時はオオナムチ)を選んだところ、オオクニヌシの兄弟である八十神たちがこれを恨み、オオクニヌシを亡き者にしようともくろんだ。伯耆の国の手間山のふもとに差し掛かったとき、「山の上から赤猪を追い落とすから、お前が下で捕まえろ」と命令。兄たちは猪ではなく、赤く焼けた大石を落とし、抱き止めたオオクニヌシは焼死してしまう。嘆き悲しんだ母神が、天の神に助けを求めたところ、天の神はキサガイヒメ(赤貝の神)とウムギヒメ(ハマグリ)の神)という2柱の女神を遣わされた。女神は赤貝の殻を削り、ハマグリを汁と清水を使って混ぜ合わせ、オオクニヌシの体に塗ったところ、オオクニヌシは息を吹き返し、復活した。

騙され、殺され、そして復活!

- ☎ 南部町観光協会
- ☎ 0859-30-4822
- 〒 赤猪岩神社 / 西伯郡南部町寺内232
清水井 / 西伯郡南部町清水川

「花の丘」は、初夏にはブルーサルビアが彩る。季節によって変わる表情で来場者を飽きさせない：©とっとり花回廊



【四季の物語つむぐ「とっとり花回廊」】

癒やされ、元気になれる場所



恒例となった冬のイルミネーション。きらびやかな光の演出が、カップルや家族連れたちを楽しませる：©とっとり花回廊



メインフラワーである華やかなユリ。施設内にある「ゆりの館」で1年中見ることが出来る：©とっとり花回廊

とっとり花回廊は、1年を通して多様な花が楽しめる、日本最大級のフラワーパーク。年間40万人弱が訪れ、親子連れや若者に加え、目が肥えた50〜60歳代にも人気が高い。今年の年間テーマは「ファンタジー」。秋から冬にかけては「オズの魔法使い」の世界が、入り口すぐの花壇などに広がっている。正面には直径50mのフラワードームがあり、晴れていれば大山も望める。1周1kmの展望回廊は、起伏のある園内をさまざまな角度から望むことができる。水平さが保たれている

とっとり花回廊
 所 西伯郡南部町鶴田110
 ☎ 0859-48-3030
 営業 4〜11月=9時〜17時 12、1月=13時〜21時
 2、3月=9時〜16時30分
 休 4〜6月、9〜11月=無休 12、1月=月2回の火曜日
 7、8、2、3月=毎週火曜日
 ※夜間営業日は21時まで営業(例外あり、詳細はWEB)
 〻 <http://www.tottorihanakairou.or.jp/>

ため、子どもからお年寄りまで無理なく散策でき、景観が次々変化して見飽きない。特に大木の梢を目の前で観察できるのは新鮮だ。園内は、エリアごとに見どころがある。「花の丘」は9月中旬から、赤いサルビア10万株が一面を彩り、真っ赤な「絨毯」に。季節によって黄色(ルドベキア)や青紫色(ブルーサルビア)などに七変化する。果樹と宿根草(※)の庭「グレイスガーデン」では約130種類の植物が、バランス良く配され、外国の庭を散歩しているかのような優雅な気分。このほか、熱帯・亜熱帯地域の珍しい植物が1年中、見られる「ジャングルドーム」も心躍る。歩くのに少し疲れたら、園内を約15分で一周するフラワートレインに乗るのも楽しい。

※ 宿根草=多年草のうちで、生育に適さない季節には地上部が枯れてしまうが、それをすぎると発芽して再び生育を始める草花



年の冬は中国地方トップクラスの140万球を使用した照明で、その壮観さが話題となった。100人を超えるスタッフが常に手入れを続ける園内は、草木や昆虫の生命力に満ちている。来場者たちは、花々の美しさに癒やされ、生命力のパワーを感じ取り、「充電」できるようだ。リピーターが多い理由だ

心と体に優しいランチとおやつ

☐ カフェ七草 ☐

古民家を利用したカフェ七草では「一汁三菜 季節のおむすびプレート」(700円税込)が楽しめる。旬の地元産無農薬野菜のおかず3品に、店主の瀧山佳世さんが「つい大きく握っちゃう」というおむすび、汁物つき。薄味でも甘みや歯ごたえを生かし、食べごたえ満点。夫・雅人さん焙煎のコーヒーや、卵や牛乳を使わない焼き菓子も提供。



旬の無農薬野菜を使った「おむすびプレート」



☐ カフェ七草
 所 西伯郡南部町鴨部82
 ☎ 080-4673-6370
 営業 水曜日のみ10時〜16時
 (ランチは11時30分〜、限定20食)
 〻 <https://www.facebook.com/cafe7kusa/>

アウトドア体験豊富、楽しみ盛りだくさん

□ 緑水湖と周辺 □



猪肉を使った人気の「山賊カレー」

〇 緑水園
 所 西伯郡南部町下中谷606
 ☎ 0859-66-5111
 営業 9時～21時 ※レストランは10時～17時
 (10時～11時30分は喫茶のみ)
 休 毎月第1・第3火曜日、年末年始
 〻 http://www.town.nanbu.tottori.jp/ryokusuiko/

〇 こもれび工房
 所 西伯郡南部町下中谷1128-1
 ☎ 0859-66-5611
 休 火曜日
 ※体験は5名以上から。3日前までに要予約

〇 森の学校〈南さいはく地域振興協議会〉
 所 西伯郡南部町能竹394-2
 ☎ 0859-66-5115(受付は平日のみ)
 休 冬季休業(12月～3月)
 ※体験は要予約

県西部の水がめ「賀祥ダム」に堰き止められてできた「緑水湖」。自然豊かな湖畔には、オートキャンプ場やバンガローなどの宿泊施設が整備されており、アウトドア好きにはうってつけのスポットだ。スワンボート(土日祝のみ)は、カップルや家族連れにオススメ。

ソーセージやキャンドルなどの手作り体験は、隣接の「こもれび工房」で。湖の東岸の「森の学校」でも竹細工、枝木細工、孔版画など、さまざまな体験が可能だ。校内にはキャンプ場や炭焼き小屋もあり、子ども会などでの団体利用も多い。

お腹が空いたら、「緑水園」のレストランへ。町内に県西部唯一の猪肉解体施設があるため、新鮮で柔らかく臭みが少ない猪肉が入手でき、多彩な猪料理が自慢だ。一番人気は、「山賊カレー」。じっくり煮込んだ猪肉が、スパイスの効いたルウによく合う。このほか、猪焼肉弁当や猪ハンバーグ定食も。同園では、町オリジナルの土産物や、新鮮な野菜も販売している。

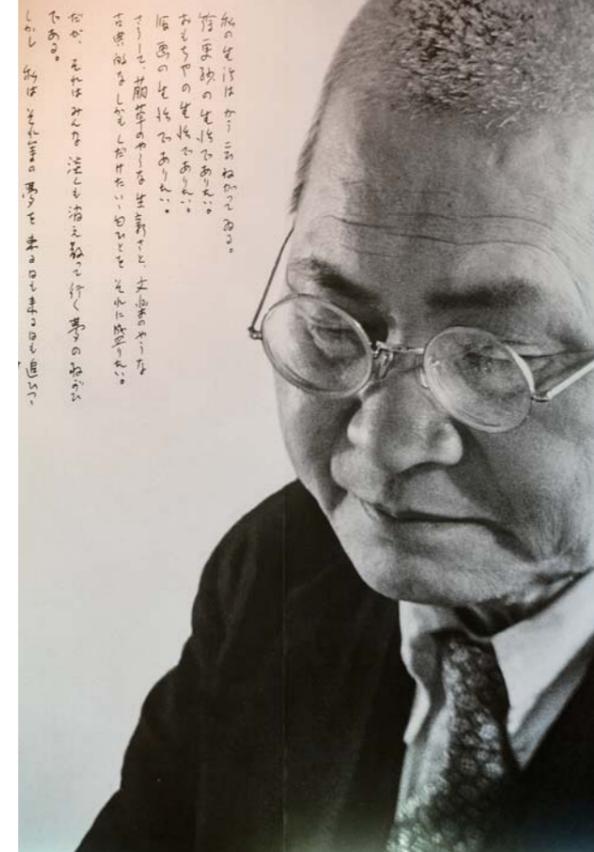
版画家・棟方志功にも認められた祐生の作品の数々



全国各地から集められた玩具



「偉大な変人」ここにあり



南部町のユニークな収集家・板祐生：©祐生出合いの館

【情熱の収集家・孔版画家 板祐生】



個性的な祐生の人柄に魅入られて、日記の解説をコツコツとすすめる中尾さん

板祐生は1889年、南部町で生まれた孔版画家で、郷土玩具などのコレクターでもある。孔版印刷、つまりガリ版刷りを芸術にまで高めた先駆者であり、全国から約4万点もの資料を集めた一級の収集家でもある。教師として実直に働き、決して裕福ではなく、ほとんど町を離れなかった祐生が、どうやって偉業を成し遂げたのだろうか。



全国各地の駅弁の包み紙。モダンで洒落たデザインが多く、現代のデザイナーもつなげる

「祐生出合いの館」の副館長・中尾慶治郎さんによると、その方法は大胆でユニークだった。興味を引かれると、たとえ知らない相手でも、伝手をたどって住所を調べ、手紙を書き、「どうか、ひとつください」と、ねだる。不思議なことに、この唐突な依頼に応える人もいて、少しずつ品物が集まるように。

「文才があつたんでしようねえ。『次の世代へ残したい』、との彼の熱い想いも響いたのかも」と中尾さん。もらった品物の礼をしなくても金がない祐生は、もらった玩具などを、仕事で使っていたガリ版刷りで版画にする。独自の技法で、十数色の多色刷りにし、冊子にまとめてお札代わりに送ったところ、その出来の良さが評判に。そして全国の収集家は、この版画欲しさに玩具などを自ら贈るといふ逆転現象が起こったのだ。こうして祐生は大量の収集品と人脈を、無料で手に入れる。駅弁の包み紙さえ集める姿に、当時は変人扱いされたが、今となればこのコレクションは、大正から昭和にかけての時代を表す資料の宝庫。版画家とし



「祐生出合いの館」の館内。祐生が生まれた時から教師時代、家族など生涯を詳しく解説。4万点のコレクションは都度、入れ替えられるため、リピーターしても新鮮だ

ての腕も認められ、世界に誇る版画家・棟方志功らと同じ団体で技を競うほどとなった。66歳で亡くなるまで、大きな情熱と豊かな発想力で、センスあふれる作品とコレクションを残した。そんな人柄に惚れこんだ中尾さんは、毎日のように綴った彼の日記の解説を進めている。「祐生出合いの館」では、祐生が収集した玩具や、収集家が欲しがった彼の版画の数々を見ることができ。収集品の数が膨大なため、展示を度々入れ替えており、何度訪れても新しい発見がある。



「赤玉ポートワイン」発売時のポスター(1922年)。日本初のヌードポスターとして、当時、話題となった。©祐生出合いの館



後に百貨店「三越」となる「三越呉服店大阪支店」のポスター(1917年)。©祐生出合いの館

〇 祐生出合いの館
 所 西伯郡南部町下中谷1008
 ☎ 0859-66-4755
 営業 9時～17時
 休 火曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌水曜日に休)、年末年始
 〻 http://www.town.nanbu.tottori.jp/kyokai/tenji/(南部町観光協会内)

ここにこの

Human
Life



新

Atarashi
Shinji

真一

コントラバス奏者

大阪フィルハーモニー交響楽団(以下…大阪フィル)に入団後2年目でコントラバスのトップ奏者に抜擢。輝かしい実績を持つ彼は意外にも遅咲きだった。大学のオーケストラクラブで初めてクラシックと出会い、音大を再受験。その後の道のりは険しかったが、くじけない心をもって、夢を実現した。奇跡的な人生を追う。



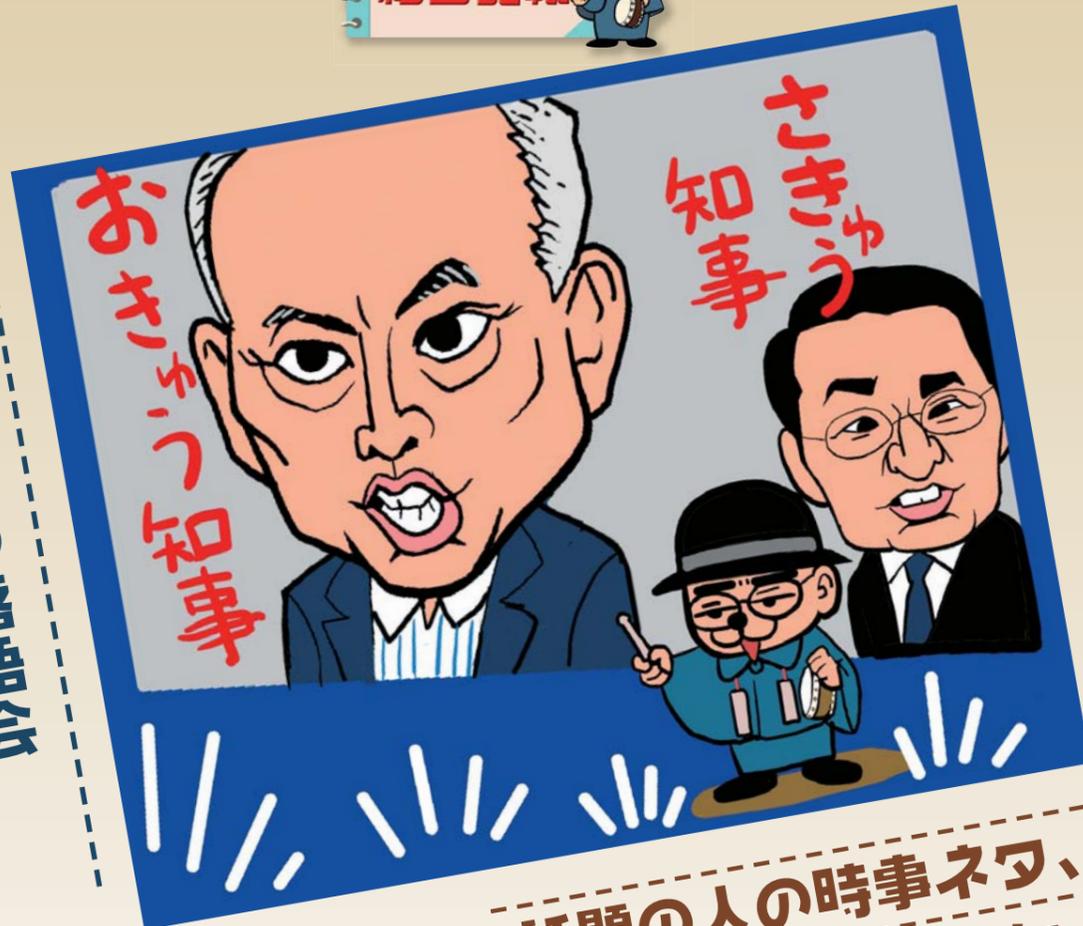
文/角秋 夕里 写真/田中 良子

郷土 LOVE の紙芝居師

ゴロ画伯の
絵日記帳



ぶった斬りの落語会



話題の人の時事ネタ、
官僚さんにも大ウケ

自作のイラストや漫画をスクリーン投影しながら聴衆に語る「エレキ紙芝居」という舞台芸を初めて5年。最近は落語や講談といった伝統話芸の舞台で、ゲストに呼ばれるようになってきた。

自称日本一の似顔絵を武器に、話題の人物やニュースネタをぶった斬る、そんな型破りの語りで、毎回、場内を笑いの渦に巻き込む。

「合法だけど不適切な知事問題」で世間が騒がしい頃、ある落語家の師匠の独演会に呼ばれた。場所は東京都心のホール。出番前、師匠から注文があった。「時事ネタはいいけど、消費税はいじらないでね」「へ?なんでまた?」「お客に財務官僚が10人来てるんだ。私のファンはインテリが多くてね〜」。

名人だと尊敬はしてたけど、まさか国家中枢と繋がっているとは。なんて師匠だ。いや、ワザと舞台前のハードルを上げて、私をからかって楽しんでるのかな。

「ゴロ画伯です。私がふだん暮らす、バリのモンマルトルから東に約8千キロに位置する鳥取県からやってきました。東京都のみなさんは今、大変な危機だそうですね。この人のせいでしょうか」。スクリーンいっぱい話題の人の似顔絵。大ウケ。官僚さんたちも大笑い。同じ行政だけど、お役所が違うしね。

誰だかわかる!?



▼ゴロ画伯プロフィール▼

本名・松村宏(まつむらひろし)1962年生まれ。米子市出身、筑波大卒。朝日新聞社勤務を経てニュース漫画家・イラストレーターとして独立。映画「おくりびと」の絵コンテ担当。現在は爆笑エンターテインメント、地域おこし、心の病気予防などをテーマに、自作自演の紙芝居師として活動中。夢は「だらざる様」(地域おこしのキャラクター)と漫画大仏殿の建立。

オケの土台、
低弦のとりこに

「オーケストラが積み木ならば、コントラバスはその土台。全体を支えるはずとした響きが好きです」。新眞二さん、59歳。31歳で大阪フィルに入団し、27年間にわたって、トップ奏者を務めている。同団ではトップ奏者としての最長記録という。



大阪フィルハーモニー交響楽団の定期演奏会
（2016年5月、フェスティバルホール）

五感に響く感動届けたい

コントラバスを初めて手にしたのは、上智大学のオーケストラ部。法学部で法曹を目指すつもりだったが、「法律に関われば当然だけの勉強が嫌になって（笑）」、音楽活動にのめり込んだ。良き師との出会いも大きかった。最初に師事した武蔵野音楽大学教授の故・檜山薫さん（元NHK交響楽団コントラバス首席奏者）は、論理的なメソッドで、どんな初心者でも成長できるように導く育成の名手。人格も素晴らしく、多くの薫陶を受けたと話す。

在学中にプロを目指そうと決め、両親の反対を押し切って東京芸術大学を受験。受験前はレッスン代を週6日のアルバイトで捻出した。

「父は激怒し、芸大合格後も諦めるよう諭す手紙が届きました。でも、後悔したくはなかった」と。ところが大学を終え、大学院卒業後も、オーケストラへの入団は、すぐにはかなわなかった。希望する団の団員募集がなかったため。募集を待ちながら、腕を磨い

「自身の経験を生かし、次の世代につなげていきたい」と話す新さん



ているうちに、金銭面も含めての支援者が現れ、海外で学ぶチャンスを得た。そして留学中に大阪フィルのオーディションに合格。ようやく道は拓かれた。

子どもたちに
本物の音楽を

最初の頃は周囲のレベルの高さに圧倒されるばかり。しかし、持ち前の勤勉さでひたすらに励んだ。ドイツ・オーストリア音楽を

コントラバスで表現を追求

転機となったのは、未曾有の被害を生んだ阪神淡路大震災。自身も宝塚市の自宅で被災した。



「宮川彬良&アンサンブルベガ」のメンバー。さまざまな楽団のメンバーで構成する。後列右が新さん。©おふいすベガ

「市民に笑顔を取り戻したい」という思いから、作曲家の宮川彬良さんと知己の演奏家に呼びかけ、1998年に「宮川彬良&アンサンブル・ベガ」を結成。宝塚ベガ・ホール（兵庫県宝塚市）を本拠地に全国で活動を展開する。スタンスは、クラシックとポップスを中心とする室内楽のショー。これがNHK教育テレビの子ども向け音楽番組『クイントット』が作られるきっかけとなり、その演奏を担当した。

「感性豊かな子ども時代に本物の音楽に親しんでほしい。高尚でとっつきにくいというクラシックのイメージを覆し、身近なものに感じてもらう活動です」。

親子向けのコンサートでは、楽器体験の時間を設け、ステージでは宮川さんの解説とともに寸劇なども取り入れる。開演前の影アナを務めるのは、事前募集した子どもたち。「演奏中は、静かにお楽しみください」と、マナーを呼び

かけるアナウンスも、子どもが呼びかけると効果てきめんだという。

今の生き方が
将来への布石

演奏活動の間には、大学講師などの仕事も相次ぐ。かつて自分が良き師に導かれたように、後進の指導にあたる現在は、現場の厳しさと同時に、「くじけない心」の大切さを説く。「夢を叶えられる人は、ほんの一握り。精神的な強さがカギとなるから」。

なかなか休む暇はないが、今をいかに生きるかが将来への布石となることを確信している。

「コントラバスをツールに表現活動を行ってはいませんが、別の分野で何かを表現する時も同じ感覚でやっている。コントラバスに出会ってなければ今の私はいません」。

演奏の全体を支える奏者として、人々の生活に豊かさをもたらす芸術家として。表現者・新眞二の歩みは続く。



ハセホビー 鳥取市



訪れた中学生たちは、入店するとモデルガンコーナーに一直線。
「プラモデルには関心がない子がほとんどですから」と苦笑する長谷さん



古今
時代屋
やじこ
だいに
ここにあるカタチ

文／稲嶋 正彦
写真／田中 良子

幼いころのヒーローは「近所のお兄ちゃんたち」だった。かけっこが速く、木登りが出来て、力も強かった。特に木や紐、ダンボールなど身近なもので、即席の「おもちゃ、
を作ってしまう様子には目を見張ったものだ。

長谷恭二さんが7歳年上の兄、美喜雄さんと「長谷模型」を創業したのは、プラモデルが出始めたころの1961年。当時はまだ高価で、正月にはお年玉をもらった子どもたちがどっと押し寄せたものの、経営的には苦しかったという。

しかし、65年頃にスロットカー(※)ブームが起こり、店内にレーシングサーキットを作ったところ大当たり。71年には現在地近くに支店として「ハセホビー」をオープンさせた。

サンダーバードやガンダム、ミニ四駆といったブームが起きるたびに賑わいを取り戻してはいたが、90年代にTVゲームが普及し始めると状況が一変。子どもたちは、プラモデルを作らなくなった。「頭でっかちになって、日本人の器用さが失われてしまわないか心配しますよ」と恭二さん。

入口には「模型専門店」の文字が。そして、その下のショーウィンドーには、お客さんが、飾ってほしいと持ち込んだ作品がズラリと並ぶ。多くは40代以上で、自分で着色したり、部品を交換したりしてオリジナルなものに仕上げるのだという。

「専門店じゃないと揃わないものもあるので、店を閉めないでくれ、と言われるんですよ」と、恭二さんは80歳を超えてなお、かくしゃくと店頭に立っている。

※スロットカー＝スロット(溝)のついたコースを走る模型自動車

【ハセホビー】

〒 鳥取市新町201
営業 9時30分～18時30分
☎ 0857-23-9927 休 水曜日



貴重な年代物ズラリ、品揃え多彩



店内には、自動車や鉄道、戦車、戦闘機といった定番のものから、大型の帆船、城や社寺など値の張るものまで、所狭しと並べられている。その横には、小さな部品から工具など改造用のものや、多様な色を取りそろえたカラー塗料も。客のほとんどは男性だが、少なからず熱心な女性ファンもいるらしい。



客から寄贈された作品の数々が店頭のショーケースを飾る



プラモデル作りに使用する道具の数々。細かい作業が多いため、さまざまなタイプを使い分ける

温泉地の賑わい、再び

「しゃあまけたち」が奔走する関金地区



資源を活かし、人が集う場所を

岡山県との県境に位置し「白金の湯」と呼ばれる関金温泉は、その昔、旅の僧が法力によって源泉の一つを探し当てたのがはじまりとされる。旅の僧は弘法大師であったとも伝えられており、歴史深い温泉地は、作州街道と大山への分岐点にあたる宿場町として大いに栄えた。

まだ倉吉線（※）が通っていた昭和30年代には、蒜山方面などから多くの湯治客を迎え、温泉街は活気にあふれていたという。住民たちに往時の様子を聞くと、「映画館や芝居小屋があつて旅館も10軒以上あつた」「浴衣を着た人たちがいっぱい歩いていた」と、湯けむりとともに華やぐまの風景を、懐かしそうに話してくれる。しかし今、その通りには

旅館の灯りも浴衣で歩く泊まり客の姿も、ほとんど見られない。

景気の影響や旅行者のニーズの変化、旅館の後継者不在など、いくつかの問題が重なって時代の流れに取り残され、現在も町内で営業する旅館は片手でも余るほどに。「このままでは10年後、関金温泉が消滅してしまう」との危機感から、関金温泉旅館組合と地元住民は2013年4月、「関金温泉グランドデザイン策定検討会」を立ち上げた。

検討会では「関金の資源は温泉」と再認識。「温泉を活かして人が集う場所を作ろう」と、10年近く閉館したままになっていた旧老舗旅館「温清楼」を活用することを目標に掲げ、翌年5月には実施主体となる「関金しゃあまけ協会」（菅原淳博会長、会員約30人）が発足した。

いざ旅館の改装に取り掛かると、膨大な荷物は置かれ放し、建物の痛みも激しく、予想以上に手がかった。事務局の楠本知恵美さんは、「出来上がりのイメージが全く描けないほど、ひどい有り様でした」と振り返る。

「この、しゃあまけが！」——。

鳥取県中部の子どもたちが叱られる時に、よく使われる言葉だ。

意味は「生意気、出しゃばり」。

来年、開湯1300年を迎える温泉地、倉吉市関金地区で「かつての賑わいを取り戻そう」と住民有志が奮闘している。

そこには、人から「生意気」と言われても揺るがない、しゃあまけたちの大きな愛郷心があつた。

※1 倉吉線=かつて倉吉駅から東伯郡関金町(現・倉吉市関金町)の山守駅までを結んでいた、日本国有鉄道(国鉄)の鉄道。国鉄再建法の施行で1985年4月1日に全線廃止となった。



足湯として整備された露天風呂。常時、誰でも使用が可能だ



イベント通じ、まちの「お宝」発信



「できることから楽しみながら、
「モットーです」と楠本さん



「まだ課題はあるが、一歩ずつ前進したい。
とにかく継続が大事」と原さん



多くの人が詰めかけたオープニングイベント
(2015年8月) ©関金しゃあまけ笑会

☑ 関金しゃあまけ笑会
☑ 倉吉市関金町関金宿1230
☑ 090-6432-2967(事務局・楠本)
☑ <https://www.facebook.com/sekiganeshamake/>

それでも趣旨に賛同した多くのボランティアが町内外から駆けつけ、共に掃除や片付けに汗を流してくれたことで、15年8月には新たな交流拠点「しゃあま家」としてオープンできた。

しゃあま家では、週末限定で茶屋を開き、近くの源泉掛け流しの露天風呂を足湯として常時開放している。このほか、道をはさんですぐ上の大滝山(おたきさん)地蔵院境内にある国指定重要文化財「木造地蔵菩薩半跏像」(写真右下)※2の前での瞑想体験や、地区内の大山池(おたきさん)ふれあい広場を

歩く「散策会」、独身者同士の縁を結ぶ「縁活」などを食事付きで開催。オープンから約1年、イベントを通じて町内の「お宝」を発信し、人の往来が血流となって温泉街は徐々に息を吹き返し始めている。

町民らが手作りで飲食店などを開いて来場者をもてなす「セキガネ温泉手づくり文化祭」も、検討会を組織した年から始め、今年で4回目。笹原会長は「最初は、本当に人が来るだけ、と半信半疑だったが、ふたを開けてみたら大盛況でびっくり」と、その効果を実感する。今年は、ウォーキングの国際イベント「ワールドトレイルズカンファレンス鳥取大会2016」(※3)と日程を合わせ、10月16日に開催予定だ。

毎週水曜日には、しゃあま家に会員が集まってイベントの準備や今後の課題を話し合っている。「ここは、みんな美女ばかりだしえ。メンバーがそろえば、丁々発止の掛け合いをしつつ、笑い声が絶えない。しかし、楠本さんは「これがゴールではなく、しゃあま家を地域の拠点として、もっと多くの人に使って

このほか大きなかき揚げが載った「かき揚げのっけうどん」(500円)、鳥取名産「ねばりっこ」のどろろと関金特産ワサビをコラボレーションした「延命御膳」(700円)も好評だ。季節ごとのスイーツもあり、ティータイムでもOK。高齢者から子どもまで喜ぶメニューを用意している。

毎月第2土曜日は「集まり処えん」として夜も営業し、手作りのおつまみで、おいしいお酒とにぎわいの場を提供。平日は貸し館として利用でき、7人以上で料理の予約も受け付けている。※値段はすべて税込



ビッグサイズのかき揚げが載った「かき揚げのっけうどん」

素朴で滋味豊かな味が人気

「しゃあま家茶屋」



人気の「しゃあまけ御膳」

週末限定で開かれる「しゃあま家茶屋」では、地元のお母さんたち手作りの素朴で滋味豊かなメニューが楽しめる。

一番人気は「しゃあま家御膳」(700円)。2種類のおにぎりと旬の野菜を使った天ぷら、煮物などのおかず、お味噌汁が日替わりで味わえる。この日の御膳には、ハチクとフキの煮物、ゼンマイの油炒めと季節の山菜料理が並び、メインの鶏肉の焼き物は、関金産ワサビを使ったワサビ味噌と、手作りタレの2種類のソース付きで、訪れた人の胃をほっこりと和ませる。

☑ しゃあま家
☑ 倉吉市関金町関金宿1230
☑ 0858-33-5395
☑ 土日11時~17時、第2土曜18時~21時30分
☑ <https://www.facebook.com/syamaketaya/>

「もういたい」と、先を見据える。笹原会長も「地域が盛り上がるように、子どもから大人まで広く参加できる形を考えたい」と、気を引き締める。

当面の目標は、足湯を露天風呂に戻して家族やグループで楽しめる貸し切り風呂に整備すること。そのための資金を集めるのは、容易ではないが、困難を前に尻込みするような人はいない。

関金しゃあまけ笑会は、「笑って出しゃばる明るさ」を以てして、歩を進める。理由はひとつ、「愛するわがまちだから」。

※2 木造地蔵菩薩半跏像=1192年、源頼朝の家人の武将・佐々木高綱が造立。像高344.4cmと地方に残る地蔵菩薩像としては屈指の大きさ。「関の地蔵さん」と呼ばれて、広く庶民の信仰を集めた。
※3 ワールドトレイルズカンファレンス鳥取大会2016=世界のウォーキング・トレッキング関係者が集う国際会議で日本では初の開催。10月14日~17日。





鳥取の
うま味
愛されて半世紀
誠実さ物語る味

噛めば噛むほど、うま味が広がる、鳥取県産の「がいなどり」と「鳥取地どりピヨ」を使った特別な鶏料理を食べられる店がある。「鶏肉にしても、野菜にしても、地物は素材自体がとてつもない。その味を「ごちゃごちゃ」変える必要はないんです。そう話すのは、とり料理「さんぼう」の店主・洋谷純さん。創業は1968年。移り変わりの激しい京都・米子市の中心地で約半世紀、味・姿・香りの「3つの宝」で客をもてなしてきた老舗。この街になくはならない存在だ。

名物だんご鍋は、ムネ肉とモモ肉で作る秘伝のつくね団子を、たっぷりの野菜とともに特製ダシでいただく。さんぼう風ドライカレーは、水を一切使わず、鶏肉と野菜とスパイスでじっくり煮込み、1週間以上寝かす。そうすることで、各々に主張していた味が落ち着き、抜群のバランスになる。

「自分が見て食べてベストなもの」が、洋谷さんの基準。必ず鶏舎まで足を運び、育った環境を確認する。そんな誠実な姿勢が、愛され続ける味に表れている。

文/矢倉みゆき 写真/菅野雄一



■ ■ 素材生かしたとり料理 ■ ■

夏でも人気の「名物だんご鍋」(1人2750円※写真は3人前)は、肉団子のほか、地元の新鮮野菜がたっぷり。「さんぼう風ドライカレー(唐揚げ付き)」(1200円)は、甘さと辛さが絶妙な人気メニューのひとつ
※値段はすべて税込



取材協力 とり料理さんぼう
所 米子市角盤町1丁目72 (えるも〜る1番街プランシュ通り)
☎ 0859-22-5850
営 11時~16時 / 17時~21時
休 月曜(祝日の場合は営業)
WB <http://tori-sanpou.co.jp>

丁寧に昔ながらの製法守る

久米桜酒造(伯耆町)

たとえば——蒸した米を広げ、麹菌を振りかける。温度を調節しながら、両手で米を均等に混ぜる。労力と時間をかなり費やす。機械を導入すると、作業は早く、苦勞しないだろう。しかし、製造担当の樋口智成さんは、焦らない。酒造りで体験する手触り感を大切にしたいし、伝統産業のあるべき姿を見極めたいから。つまり「苦しくても楽しい」のだ。

久米桜酒造は1855年に開業。1987年に米子の市街地から名峰・大山の麓に醸造場を移した。ここでは、真つさらな大気、澄みわたる大山伏流水、地元八郷に育ち輝く酒米と3拍子が勢揃い。酒造りの技術や情熱がさらに磨かれる。

こうした恵まれた環境のなかで、「八郷」が生まれた。発売して16年以上たつが、すっきりとした軽快辛口に対する評価はますます高い。12年目となる強力な応援団「八郷酒造りの会」も盛り上げる。



良し酔い
はし酒

とっとり
酒蔵めぐり



左の木は桜。春になると「久米桜」の名にふさわしく咲き誇り、玄関を彩る



【情報メモ】

久米桜の社名は、久米城と呼ばれていた米子城に由来する。▼「平成の水100選」(2008年環境省指定)に選定されている湧水「地蔵滝の水」の同水系を使用。▼「八郷酒造りの会」は、米作りから酒造りまで体験し、自分で育てた酒を楽しむ会。会員は約50人、県外からの参加もある。

☎ 久米桜酒造有限公司
所 西伯郡伯耆町丸山1740-50
☎ 0859-68-6555
WB <http://g-beer.jp/kumezakura/#header>

文/須崎 俊雄 イラスト/谷繁 淳子

「海も山も近く、ゆったりとした今の環境に満足しています」と話す宮本さん



文/島 香子
写真/萱野雄一

毎年アメリカで開催されている「国際似顔絵大会」で優勝するなどの経歴を持ち、似顔絵画家として幅広く活動する宮本栄一さん。「自然を感じながらゆったりと暮らしたい」と家族で移住したのは、日本海に面し三方を山に囲まれた町、鳥取市青谷町あおやちようだった。



◎似顔絵画家・イラストレーター(鳥取市青谷町)◎
あおやちよう

えいいち
宮本 栄一さん
岡山県倉敷市出身



震災を機に両親の故郷へ

岡山県生まれの宮本栄一さんは、画家を志し20歳で東京へ。大手似顔絵専門プロダクション所属をきっかけに、似顔絵を描き始めた。22歳の頃には西欧を半年間かけて放浪し、美術館を巡りながら絵画の腕を磨いた。中でも、現地の街角などでカリカチュア(※)文化に触れたことが、似顔絵画家としての歩みを方向付けている。
プライベートでは、あえて都心を離れ、妻のみゆきさん・長男とともに



宮本さんのスピーディーな筆使いであっという間に描き上がる似顔絵



◎宮本栄一

■絵がお本舗■
〒鳥取市青谷町青谷
☎080-5041-7877
🌐http://miya.moo.jp



◎宮本栄一

海辺の町で見つけた、
ゆったり子育て&創作拠点



ハリウッドスターや、日本の往年の歌手など有名人がズラリ。来場者を楽しませた(時代を彩る因州和紙似顔絵展) Ⅱ 写真上
Ⅱ 写真下は宮本さんの作品

◎宮本栄一

多くの出会いで活動広がる

「自宅からわずか数分歩くだけで、砂浜に出られる。青谷町は、海、山、川と間に触れあうことができ、家族みんなが喜んでいました」と話す宮本さん。移住から丸5年が過ぎ、画家活動ではさまざまな出会いがあった。

インターネット上に開設したホームページ「絵がお本舗」で似顔絵制作の依頼を受けるほか、鳥取県や岡山県内各地の観光施設・イベントに出張し、似顔絵を描く活動を展開。

加えて、地元小学校で図画工作を教えたり、一般向けの似顔絵講座を開いたり、教える立場での活動が増えた。

それに伴い、宮本さんの知名度も地元浸透し、自治体や企業の名刺・キャラクターデザイン、ポスター等印刷物のイラストでも活躍中だ。今年4月には、あおやちよう(鳥取市青谷町)の協力を得て、「時代を彩る因州和紙似顔絵展」を開催。誰もが知る著名人・スポーツ選手らの似顔絵108点を一挙に発表し、来

場者から大きな反響を呼んだ。「通常は、洋紙や色紙に水彩絵具で描くことが多いのですが、青谷町伝統の因州和紙に、顔彩(日本画用絵具)で描くのは、画家活動で初の試み。和紙の風合いや絵具のかすれを生かすことで、似顔絵に味わいが表現できました」と手応えを語ってくれた。青谷町の少しゆったり流れる時間の中で広がる、宮本さんの創作活動。これからの活躍が楽しみだ。

※カリカチュア(人)や物事の特徴を誇張し、風刺やユーモアなどをテーマにした絵画



絵具は作品によって使い分けるが、和紙に描く際は日本画用の「顔彩」を使用

【問】
公益財団法人
ふるさと鳥取県定住機構
〒鳥取市扇町7
鳥取フコク生命駅前ビル1階
☎0857-24-4740
🌐http://furusato.tori-info.co.jp/

▼IJUターン就職に関する相談
☎0120-307-238
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
▼移住に関する相談
○鳥取県移住定住サポートセンター
☎0120-841-558
(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)
○とっとり移住定住ポータルサイト
🌐http://furusato.tori-info.co.jp/iju



[PROFILE]
◎家族構成/妻・みゆきさん、子ども2人(8歳・4歳)
◎移住前の住まい/埼玉県寄居町
◎移住時期/2011年9月
◎現在の仕事/絵がお本舗代表(似顔絵画家・イラストレーター)

「とっとりNOW」が届いたら、隅から隅までじっくり読んでいます。今回の「あーとの森の木芸」・福田豊さんの作品が素敵でした。このような温もりのある木の作品を、未永く作り続けて欲しいと思います。

（岡山県南区 正本康子）

郷里に近い三朝温泉に「三朝バイオリン美術館」があるんですね（110号特集）。文中にもありましたが、異色のコラボレーションに興味を惹かれました。帰郷の際にはぜひ、行ってみたいです。

（神奈川県川崎市 伊藤良久）

リノベーションの巻頭特集を読みました。多くの「RE」が頭づく言葉には、「やさしさ」が含まれているように思います。古いものが持つ温もりが伝わってくるよかったです。

（福島県福島市 佐藤寿昭）

鳥取市内のメイン道路である若桜街道を通るたびに、空き店舗が増えていて、市街地の空洞化を心配していました。巻頭特集リノベーションの取り組みを読んで、それぞれが頑張っている感じが伝わってきました。

（鳥取県鳥取市 川上 順）

「ここにこの人」の岡島礼奈さんの記事にとても感動しました。夢に向かって着実に前進し、現実化するなんてとても素敵です。これからも応援したいと思います。

（徳島県徳島市 岩本ゆき）

企業紹介「木村木工」の記事を見まして、湯梨浜町がグラウンドゴルフの発祥地と初めて知りました。クラブもぜひふんとスタイリッシュになったものですね。久しぶりにプレイしたくなりました。

（山口県山口市 上杉浩一）

鳥取の元気な企業や県出身の各分野で活躍している人、鳥取の美味しいものなど、各コーナーでそれぞれ鳥取の良さが分かる記事が満載ですね。毎回、楽しみにしています。

（京都府京都市 橋本弘之）

古今時代屋の「林そば屋」に、行ってみたいですね。以前紹介されていた「武蔵屋食堂」は、すでに行ってみました。素ラーメンが、とても美味しかったです。「素朴な食堂特集」を企画してください。

（京都市上京区 岩間文博）

「とっとりNOW」は、主人が購入しているんですが、最近では私の方が楽しみにしています。毎回、新しい発見があり、読んでみると、すぐにでも鳥取に行きたくなってしまいます。綺麗な空気を吸って、美味しい食べ物食べて、元気になれそう！NO.1のまち、ですね。

（岡山県玉野市 中戸洋子）

毎回、非常に読み応えのある内容に満足しています。これからも欠かさず、読みますので、素晴らしい誌面を作り続けて欲しい。期待しています。

（大阪府大阪市 海透雅志）

進化し続けるインターネット(以下:ネット)社会。

近頃は何をやるにも「まずは検索」が合言葉だ。

しかし、そうした人々の動きを的確にとらえられず、

手を打てない企業は多い。

その悩みに応え、ネット広告などを上手く活用して

集客につなげるプロこそ、「株式会社インフロー」だ。



ネット広告を駆使、売り上げUPへ



「サイトを作って満足してはダメ。そこから勝負です」と強調する濱本さん

事業者にとって自社のWEBサイト(以下:サイト)は、重要な営業ツールだ。しかしネット上の競争は激しく、検索結果ページには同業者がひしめき合う。上位に表示されなければ存在すら知ってもらえないほどこだ。「大きな経費をかけて自社サイトを作ったのに効果が上がらない。なぜ？」と困る企業が、インフローに駆け込む。

「多くのWEB制作会社にとって、サイトの完成がゴール。クライアントはそこからがスタートなのに。うちはそのフォロワーに入って、集客と売上アップをプロデュースします」と、代表取締役・濱本浩二さんの言葉は心強い。

検索結果の上位に表示されるよう最適化する「SEO対策」、検索キーワードに連動して広告を表示する

「リスティング広告」(※)といったネット広告等を活用して、サイトへの導線づくりを仕掛ける。検索エンジン大手2社、Yahoo!とGoogleから代理店認定を受けており、ネットの広告商品やサービスの精通。広告をクリックした時のみ料金が発生する「クリック課金型」、契約期間中の表示回数を設定する「表示回数保証型」など予算やニーズに合った提案が可能だ。

濱本さんは、県外へ講演会に出かけることも多い。「売上とは顧客の感謝を数値化したもの」「必要なのは圧倒的な差ではなく、ほんの少しの差」といったビジネス観は独特かつ斬新だ。13年間のサラリーマン時代に、金融機関や医療機器の営業経験があり、「その頃に出会った上司の影響が大きい」という。ひょうひ

ようとしているが、社内の書棚にズラリと並ぶビジネス書は、彼が実は努力家であることを告げている。

都心にも顧客を持つが、心を寄せるのはやはり地元・鳥取だ。「地域に根ざして、小さな事業所にも細やかに対応していきたい。小さいところが活性化しないと大きな動きにならないですから」。クライアントに寄り添い役割を果たす。真の広告代理店であろうと、今日も奔走している。

※リスティング広告とはインターネットでYahoo!やGoogleなどが提供している検索エンジンにおいて、ユーザーが検索したキーワードに関連した広告を検索結果ページで表示するサービス

文/鳥飼明子



WEBを使った集客セミナー&ワークショップで講義する濱本さん(2015年5月、東京都内): ©インフロー

毎年1回の交流会で親睦深める



毎年夏に開く交流会では故郷の話に花が咲く

大山町出身者や町に関心をお持ちの方々を会員として、全国に向けて町の魅力をPRしたり、情報交換をしたりする場として発足しました。

主な活動は2つ。1つめは、毎月1回「ファンクラブ通信」を発行しています。通信には、町の近況やテレビ放送など、遠方にも町を身近に感じられる内容を掲載。「広報だいでん」や「県政だより」、特産品など各種パンフレットも同封し、会員に町の最新情報を提供しています。

2つめは、毎年夏に開催する交流会です。隔年で大阪と東京を会場とし、今年は8月に大阪で開催しました。参加者の近況報告に共感したり、地酒や乳製品など町の特産品に舌鼓を打ったり、和やかな雰囲気毎回盛況です。

今後も会員の交流をはじめ、町への移住や定住の促進(IJUターン)、企業誘致等についても意見をいただき、より良い大山町を目指して活動を行っていきます。随時、会員を募集中です。お知り合いの方をぜひご紹介ください。



鳥取県人会リレー紹介

だいでんファンクラブ

設立/2005年7月
会員数/約170名(2016年6月現在)
会費/年会費1000円
入会方法/事務局へ連絡

▽問

だいでんファンクラブ事務局
(大山町役場・企画情報課内)
〒689-3211
鳥取県西伯郡大山町御来屋328
☎0859-54-5202
☎0859-54-5216

毎月発行の「ファンクラブ通信」と「広報だいでん」。事務局が主体となって定期的に地元の情報を提供している



●111号プレゼント応募用クイズ●

Q 孔版画家としても認められ、約4万点もの郷土玩具などを集めた南部町の収集家の名前は？3文字を漢字でご記入ください。

110号のクイズの答えは「ピオラ」

「特集」コーナーの記事に正解があり。

読者プレゼント

応募×切
2016.9/30
消印有効

■応募方法
頁右上のクイズの答え、ご意見、ご感想とともに希望の商品名と記号、住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、下記までお送りください。ハガキまたはメールで受け付けています。なお、感想が次号に掲載される場合、住所、氏名が明記されることをご了承ください。

■プレゼント応募にはクイズへの回答が必須です。本誌を読み、頁右上のクイズにお答えください。

■応募先
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
mailaddress: now@kouhouren.jp

※お預かりした個人情報、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

A



【3名】
くめざくら 特別純米酒 八郷 (720ml)
八郷産の酒米「山田錦」を名峰・大山の伏流水で仕込んだ、精米歩合60%の特別純米酒。スッキリとして旨味のある口当たり。冷やまたは常温で。
問 久米桜酒造有限会社
☎ 0859-68-6555

B



【5名】
海と天地のめぐみ米 (2kg)
海藻有機肥料を使用したこだわりの土壌で育てられた日南町産のコシヒカリ。ミネラルやアミノ酸などの栄養分も豊富。甘味が強く、冷めてもおいしい。
問 農事組合法人エコファームHOSOYA
☎ 0859-82-1412

C



【10名】
みささかんのくら 三朝神倉大豆水煮「神のつぼみ」 (150g×4)
三朝町限定生産の地大豆「三朝神倉」の水煮。大粒でコクと甘みがたっぷり。サラダや和え物、カレーなど、さまざまな料理に使える。
問 JA鳥取中央市場開発部直販課
☎ 0858-28-2825

D



【5名】
完熟黒らっきょう (70g)
砂丘らっきょうを蒸し焼きにして熟成させ、見た目も味もブルーのように仕上げた。クセが無く食べやすい。ねっとりとした食感が特徴。
問 アチーブエモーション
☎ 0857-20-2385

E



【10名】
ひなしちゅうが 冷梨中華 (2人前×2)
二十世紀梨の果汁入り特製スープが付いた、生麺タイプの冷やし中華。酸味と二十世紀梨の風味が、より食欲をかき立て、暑い日にオススメの一品だ。
問 株式会社アグリネット琴浦
☎ 0858-55-0212

F



【3名】
鳥取のごぼう茶 (2g×12p)
砂丘畑で栽培された北栄町産の砂丘ごぼうを皮ごと使用した、ティーバッグ式のお茶。ゴボウの風味豊かで、土臭さが少なく飲みやすい。
問 鳥取廣信青果有限会社
☎ 0857-26-2321

G



【5名】
いのししジャーキー (30g)
イノシシ肉の赤身をスライスし、特製のとれに漬けこんで燻製にしたジャーキー。スパイスが利き、噛むほどに肉の旨味が口に広がる。酒の肴に。
問 株式会社社緑水園
☎ 0859-66-5111

H



【5名】
竹するめ (20g×3)
南部町産のタケノコを乾燥させて味付けした、新感覚のおつまみ。まるでスルメのような食感で、食物繊維も豊富。山椒、七味、カレー味をセットで。
問 株式会社社緑水園
☎ 0859-66-5111

Editor's note

□■編集後記■□

初の南部町特集。米子市から車で15分ほどなのに、このまちの特長を知らない人が多いのでは？今回、私も改めて素敵な発見があった。▼母塚山山頂からの贅沢な眺めは、すべてを受け止めてくれるかのごとく包容力。心身はぐれて和らいでいく。赤猪岩神社では、復活パワーを授けられ、あれ？

なんだか急に元気出たみたい。続くとっとり花回廊では、美しい花々たちが「ようこそ」と微笑みながらエスコートしてくれて、気分はすっかりプリンセス。夕闇迫れば、ホテルたちに幻想の世界に誘われ、うっとり酔わされる。「ああ、なんて役得…」と、自身が立てた企画に内心、ほくそ笑む。だって、予想を遙かに裏切る満足感だったから。▼よく耳にする言

葉は「鳥取は何もない」。そうじゃない。「知ろうとしない」だけなのだ。▼だって、これをデートコースに選んだら、女心はイチコロよ。下手な口説き文句より効果は絶大(笑)。そして日々、お疲れモードのそのあなたもぜひ！一度ここに来てみて。きっと心が生き返るはず。 [Hi]



〈企画・編集・発行〉鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)
〈制作〉株式会社ジェイ・エス・エス
〒680-1131 鳥取市馬場233-1 TEL.0857-37-4120

☎ 0857-26-7086
📠 0857-29-6621

とっとりNOW 検索
http://www.kouhouren.jp/
2016年9月1日発行 定価309円